



言葉は時代とともに

ことば じだい

林 真理子

はし まりこ

上品な言葉というのは、いったいどういうものをいうのであろうか。

がさつな生活をしている私にとって、これはかなりの難問である。

何年か前、華族出身の女流歌人の伝記を書いたことがある。その際、東京山の手育ちを自他ともに認める学者から

「これは上流社会の使う日本語ではない」

という指摘を受けた。あまりにも上品過ぎるというのである。確かにそのとうりで、資料を調べると明治の皇后は、キセルをぽんと叩きながら、

「お前さん、そうじゃないかえ」

などと、かなりくだけた言葉を使っていたらしい。けれどもこれを文章にしたら、いったい何人の読者が信じてくれるであろうか。やはり間違っているとわかっていても、

「何々じゃないかしら」

「そうおっしゃっては駄目よ」

という言葉遣いにしなくてはならないのである。

つい先日、明治の文豪を扱ったノンフィクションを読んでいたら、明治の時代、女学生たちが流行らせ、大人たちの眉をひそめさせる言葉が出ていた。

「何々してよ」

「何々なんだわ」

今の私から見れば、もう廃れかかった上品な言葉に思える。最初の「何々してよ」は命令ではなく、肯定の言い方である。語尾をやわらかく上げるのであるが、今も使う人は殆どいないだろう。それほど古めかしい丁寧な言葉使用であるが、当時の人にしてみればとんでもないギャル言葉だったらしい。言葉は日ごとに変わっている。しかし今はひどい。

戦後の日本の民主主義というのは、いや、どこの国でも同じだろうが、男女同権を強く推し進めてきた。この国には、男言葉、女言葉というものがあってあるが、それは古めかしいことだという風潮だ。

以前小説の中で、男と女を会話させる時、主語はいらなかった。

「いや、そうは思わないよ」

「それはあなたが間違っているわ」

どちらが男か女がすぐにわかった。けれども今の若い人たちは、ほとんど同じ言葉を使う。女友だちに呼びかける時、昔は「マリちゃん」という風に「ちゃん」という愛らしいオマケをつけた。けれども今は女の子でも「ハヤシ」と苗字を呼び捨てにする。女の人が高品な言葉を喋らなくなった。小説家にとって苦難の時である。

(小説家)

表紙エッセイ

言葉は時代とともに

林真理子 (小説家)

新任のごあいさつ

榊原通紀 (国際交流基金日本語国際センター副所長)

教育実践レポート⑰翻訳・通訳者養成

モスクワ国立言語大学における通訳・翻訳者の養成

ミシーナ マリーナ (ロシア・モスクワ国立言語大学
通訳翻訳学部 日本語学科学科長)

日本語・日本語教育を研究する

第17回 会話能力の測定

鎌田 修 (京都外国語大学教授)

国際交流基金開発教材紹介

『続 教科書を作ろう

- 中等教育向け初級日本語素材集 - 』

中・上級 新聞・雑誌から見る現代日本

第9回 「電車の中で化粧 どう思いますか？」

本コーナーは著作権の関係でホームページへの掲載ができません。

海外日本語教育Q&A (最終回)

初・中級 写真で見る日本人の生活

ふる

初・中級 授業のヒント

会話のストラテジーを教えよう

本ばこ (新刊教材・図書紹介)

ニュース・編集部から

Essay

Words ... As time goes by
Mariko Hayashi (Writer)

Inaugural Address

SAKAKIBARA Michinori (Deputy Director of the Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa)

Japanese Language Teaching Around the World ⑰

Training Translators and Interpreters at Moscow State Linguistic University

Marina A. MICHINA (Chief of the Japanese Department, Faculty of Translation and Interpretation, Moscow State Linguistic University)

Research on the Japanese Language & the Japanese Language Education Measurement of Oral Proficiency

Osamu Kamada (Professor, Kyoto University of Foreign Studies)

Teaching Material Developed by the Japan Foundation

Publication of 『Zoku Kyōkasho o Tsukurō - Basic Resources for Secondary - Level Japanese 』

Intermediate and advanced Aspect of Japan Today in the Newspaper and Magazine

What do you think about making up the face on the train?

(This article is prohibited to appear on the web sight by copyright holder.)

Overseas Japanese-Language Education Q&A

Beginning and intermediate Japanese Life As Seen in Photographs

Bath

Beginning and intermediate Ideas for Japanese-Language Classrooms

Teaching Conversational Strategies

Book Shelf : Introduction of New Titles

Miscellaneous News・From the Editors

マークは、読者が教えている生徒のレベルを示します。

mark indicates the level of students whom readers are teaching

新任のごあいさつ

国際交流基金

日本語国際センター副所長

榊原 通紀 (さかきばら みちのり)



8月に日本語国際センター副所長に就任いたしました。1989年の開設以来、日本語教育関係者をはじめみなさまのご支援・ご協力を得て、築きあげてきた当センターの実績をけがさないよう努力していきたいと存じますので、よろしくお願ひ申し上げます。

さて、当センターは、海外の日本語教師を主たる対象とする研修、日本語教材開発・教材寄贈等を通じての教材充実支援、内外の日本語教育事情の情報提供の3分野を柱に、海外の日本語教育の基盤整備のため、さまざまな事業を展開してきました。特に、研修事業については、開設以来6千人を超える方々を受け入れてきました。読者のみなさまの中にもすでに当センターに来られた方も多くいらっしゃると思います。

1998年に行った海外日本語教育機関調査では、日本語学習者数は約210万人、日本語教育機関数は10,930機関、日本語教師数27,611人であり、5年前に比べ学習者数・教師数

は約30%増、機関数は約60%増と数の上ではそれぞれ大幅に増加していますが、従来から言われている、近年の日本語学習者数の急激な増大に対し各国における教師養成が追いつかないという教師不足の問題は解消されていません。

また学習者の多様化に対応するため、各国の教育事情や母語あるいは教育対象等それぞれの現場環境に対応する教材開発・教授法策定に対する支援が求められています。他方、教育機材としては、コンピュータの活用が近年激増しており、当センターでも、インターネットによる教材・教授法などの情報提供や日本語教師間の情報交流、連携強化の場の提供をより充実させていきたいと考えています。

このように、当センターが行わなければならない事業は、従来にもまして増大しており、加藤秀俊所長以下専任講師・職員全員、力をあわせて日本語教育の発展のため努めてまいりますので、みなさまのますますのご指導・ご助言を重ねてお願いいたします。

表紙エッセイプロフィール

林 真理子 (はやし まりこ)

コピーライターを経て83年に出版したエッセイ集「ルンリンを買ってうちに帰ろう」が大ベストセラーとなる。「白蓮れんれん」「みんなの秘密」「ミスキャスト」他、エッセイ、小説の著書多数。86年に第94回直木賞受賞。96年から日本文芸家協会理事。00年から直木賞選考委員。

モスクワ国立言語大学における 翻訳・通訳者の養成

ロシア モスクワ国立言語大学 通訳翻訳学部 日本語学科学科長

ミーシナ マリーナ

このコーナーでは、特色ある日本語教育を実践している機関の教師の方々に、現場のコースデザインやコース運営の状況について、紹介していただきます。

1 主な目的

翻訳・通訳者は異文化間コミュニケーションにおいて、仲介の役を務めている。自分の考えではなく、他人の書いたことや話したことを異なる言語によって伝えるため、高度な語学力はもちろん、両文化に関する知識、それに訳す能力、および技術が求められている。それらを身に付けるのが翻訳・通訳教育の主目標であり、養成プログラムの学習目的となっている。

2 翻訳・通訳者の養成プログラム

モスクワ国立言語大学には、長い歴史を持つ規模の大きな翻訳通訳専攻の学部がある。日本語翻訳・通訳者の

養成プログラムは、この大学に日本語学科が設立された1990年から実施された。このプログラムはナショナルスタンダードに基づいて開発されたもので、日本語の他に、特殊な日本語翻訳・通訳課程や日本文化研究課程が含まれており、総合的な教育が行われているのが大きな特徴である。

教育期間は5年間で、コースデザイン、学習の主な内容、授業時間は下表の通りである。

対象者は17～23歳の大学生で、1クラスの学生人数は5～8名である。日本語学科の教育スタッフは10名（1名は日本人のパート講師）で、全員日本語教育経験が長く、翻訳・通訳の経験もある。各教師は1つの学年の日本語授業を指導すると共に、他の専門科目も担当している。

課程 科目	日本語				日本研究	
	日本語学	日本語	日本語学	日本語	日本事情	日本事情
授業	講義・ディスカッション・ 論文発表会	演習	講義・ディスカッション・ 論文発表会	演習	講義・ディスカッション・ 論文発表会	演習
学年	年間時間数	内容	年間時間数	内容	年間時間数	内容
1	38	音声学	570	初級の文法・漢字・語彙 読解・聴解・会話・作文	76	日本の歴史、地理、経済
2	76	文法論	608	中級の文法・漢字・語彙 読解・聴解・会話・作文	76	日本文化、日本人論
3	76	語彙学、文体論	380	中級～上級 同上	—	—
4	—	—	228	上級 同上	76	日本文学史
5	—	—	112	上級 同上	56	日本文学史
合計 時間数	190	—	1,898	—	284	—

課程 科目	翻訳・通訳							
	日本語翻訳・通訳論	和露翻訳	露和翻訳	通訳	日本語翻訳・通訳論	和露翻訳	露和翻訳	通訳
授業	講義・ディスカッション・ 論文発表会	演習	演習	演習	講義・ディスカッション・ 論文発表会	演習	演習	演習
学年	年間時間数	内容	年間時間数	内容	年間時間数	内容	年間時間数	内容
1	—	—	—	—	—	—	—	—
2	—	—	—	—	—	—	—	—
3	76	和露翻訳 通訳特徴	152	翻訳 基礎練習	—	—	—	—
4	—	—	76	専門分野 翻訳	114	専門分野 翻訳	96	仲介・逐次通訳 (ガイド・紹介・報告・会議など)
5	—	—	56	専門分野 翻訳	112	専門分野 翻訳	112	仲介・逐次通訳 (スピーチ・座談会・インタ ビュー・交渉・観光など)
合計 時間数	76	—	284	—	226	—	208	—



5年生 論文発表会

る（授業担当の内訳は4名が翻訳、2名が日本語研究、2名が通訳、1名が日本語学、1名が日本語翻訳・通訳論）各クラスは3～4名の教師が受持つため、チームティーチングが必要となっている。各科目の授業で学んだことを、他の授業でどうやって活かしていくか、何に注意を集中すべきかなどを話し合っている。教務スタッフは全員集まって、各レベルの教育上の問題点、教授法、使用教材などについて話し合ったりする。翻訳・通訳学部の教授委員会が開く会議にも参加し、発表するケースも多い。

3 翻訳の教育

翻訳の教育は中級レベル（3年生）から始まり、日本語の授業と並行して行われているが、学習目的や教え方には違うものもある。日本語の授業はコミュニケーション的な方法が主な教授法となっているが、主要教材は日本で出版された教科書（「日本語初歩」、「総合日本語中級」、「現代日本語コース」Vol.3～4、「テーマ別上級で学ぶ日本語」など）で、会話・作文などの授業にはロシア語を使わないようにしている。しかし、文法・読解・聴解の授業では訳す練習をすることがある。この練習の目的は訳す能力を育てることではなく、日本語とロシア語の文法・表現・単語の比較を通して、日本語の理解を深めるといことである。

一方、翻訳活動の主要目標は、原文を他の言語によって正確に完全に表現するということである。そのため内容はもちろん、原文の形式的特徴（語句、言い回し、構文、文体）まで、いかに伝えるかを重視しなければならない。

日本語とロシア語は言語構造が著しく異なる。よって訳す能力の基礎を置く第一の段階においては、ロシア語にはない訳しにくい構文・句型などの分析・訳し方が学

習の重点となっている。教材としては、中級用の日本語のテキストや日本の新聞に出ている難しくない小さな記事を使う。内容は最初の段階から、日本事情、日本や世界で話題になっていることを紹介する原文を選び、授業をよりおもしろくするように努力している。

上級クラスでは経済・政治・社会・文化・科学技術・ビジネスなどの各専門分野のテキストの翻訳の練習をしている。ジャンルの異なる原文を訳す力を育てるために、広告・説明書から解説・コミュニケ（公式外交声明）契約書まで、様々な文章を教材として使っている。

日本語はロシア語よりコンテキストの役割が大きく、表現構造と意味構造がかなり離れている言語である。その意味で代表的なテキストを選んで、日本人論、日本人の考え方、特有倫理についての知識を増やす。

各テーマの学習は、翻訳する原文に出てくる、キーになる新しい単語・表現の導入から始まり、その後、学生は原文に目を通して、そのテーマ、ジャンル、アイデア、文体などを日本語で討議する。次にテキストを黙読しながら口頭で訳す。翻訳そのものはテストや試験の場を除いて、宿題としてやっている（分量は1,000字くらい）。また、各種の辞典を使いながら単語帳を作り、単語の意味の他に、その使い方・訳し方にも注意を向ける。

授業では学生が作った翻訳文の分析を行い、その良い点や間違いについて、クラス全員で話し合う。このような指導方法によって、原文により近く、より正確な翻訳の能力が養われると同時に、ロシア語の表現力をも高めている。

露和翻訳の授業は、4年生のクラスからスタートし、ロシア語ができる日本人講師が指導し、和露翻訳を担当するロシア人講師とチームティーチングをしながら、共通のテーマの露文（主にロシアの新聞などに出ている日本についての記事・論文など）の内容を、クラス全員が日本語で話し合ったり訳す練習などをして、日本語能力や翻訳スキルを伸ばす。

卒業論文としては、5年生はそれぞれのテーマ（言語学、翻訳・通訳論、日本研究など）を研究して、そのテーマに関する翻訳文（30～40ページ）を自分で作り、それを研究論文と合わせて提出することになっている。

4 通訳の教育

通訳の授業は4、5年生のクラスで行われており、仲介・逐次通訳に重点を置いている（同時通訳は大学教育のプログラムに含まれていない）。

通訳者に出来ること、要求されることは、そもそも翻



5年生 ロールプレイ

訳とは別のものである。時間的な制約の中で、発言の主旨や、その場での情報的な価値を持つもの全てを、いかに早く異なった言語で伝えるかが通訳の第一の課題となっている。一連の行動（聞きながら理解・判断すると共に、記憶しメモをとる）を、ほぼ同時に行わなければならないため、高度な言語運用能力のほかに注意力・集中力・高い記憶力・反応能力などが、強く求められる。これらを身に付けるのに特別な訓練システムが必要である。

日本語学科では、このような総合的な訓練を目指す教授法が開発され、1994年に国際交流基金日本語国際センターの協力により、フェロシッププログラムの中で「中級における和露・露和通訳」という教科書が作成された（市販教材、カセットテープ付き）。以来、4、5年生のクラスではこの教材を中心とした授業を週2回、各2時間行っている。

テーマは、通訳の対象となることの多いガイド・観光・紹介・報告・会議・スピーチ・座談会・インタビューなどである。本文のほかに色々な通訳技術練習もある。

各テーマの学習は、聞く練習から始まる。本文に出てくる主なキーワード（単語・表現・固有名詞・数字）を聞きながらポーズのところで訳し、次にもう一度終わりまで7語ずつ聞いて、言葉の出た順序通りに繰り返し訳すという、基礎練習である。これは注意力や記憶力が高まると同時に、新語も自然に身につく効果がある。

次に本文に出てくる決まり表現・言い回しなどを聞いて、ポーズのところで訳した後で、正しい露訳を聞き、また日本語に訳す訓練をする。このような練習方法は日本語への対応力・反応能力と共に、ロシア語表現能力も伸ばす。

更に、本文を聞きながら要点をノートに書き取り、情報的な価値を持つものを選ぶ練習をする。その後で本文の各文・各節をそれぞれのポーズのところで訳す。宿題

としては、本文を聞きながらテープを止めず同時に繰り返し返す練習、同時通訳する練習を指示している。この方法により、「聞きながら話す」スキル、集中力、ロシア語表現能力、速いスピードで話す力などが養われる。

次の段階では、その学習テーマのジャンルによく使われている日本語の文型、言い回し、構文、特にロシア語に訳しにくいパターンの使い方・訳し方の練習をするが、これはペアワークの形で行う。1人の学生が例にならって日本語の文を作り（またはロシア語から訳し）、相手の学生は、その日本語をロシア語に訳す。クラス全員が同時に練習出来るため、授業はインテンシブなものになる。

仕事が公式の場で行われることの多い通訳者には、敬語表現能力が強く求められる。コミュニケーションの参加者やその場の状況により、敬語表現の使い分け、使い方、訳し方の訓練を目指す場面練習も各テーマの勉強の重点となり、特に仲介通訳を練習するロールプレイに、学生の興味が集まる。

最後は、訳すスキル全てを求める逐次通訳練習のコントロールを目指す。訳すテキストには、学習した表現のほとんどが盛り込まれているが、内容的には全く新しい和文・露文となっており、学生には通訳の現場に近いという実感がある。このような練習を重ねながら、自信を持って通訳に取り組み能力を養っている。

5 今後の課題

現在は、以前の経験や明らかになった問題点・研究をまとめ、各科目の教育コーディネーションを一層強化し、総合的な教授・教材システムを制作する課題に取り組んでいる。特に中級用翻訳教材を開発し、上級レベルにおけるプロとして通用する実力を伸ばす、総合的な翻訳・通訳教材を作成する必要がある。その点ではカリキュラムも見直す必要がある。この教材作成のプランが実現すれば翻訳・通訳者養成の一層の強化になるであろう。



5年生 ペアワーク

会話能力の測定

京都外国語大学教授 鎌田 修

このコーナーでは、これから研究を目指す海外の日本語の先生方のために、日本語学・日本語教育の研究について情報をおとどけしています。今回のテーマは会話能力の測定です。

1. 日本語が話せるということ

日本語が話せるということはどういうことでしょうか。日本語の発音ができる、日本語の単語を知っている、日本語の文法を知っている等々、色々な条件をあげることができますが、しかし、それで本当に十分なのでしょうか。今でも世界中の多くの外国語教育の場で行われているダイアログの丸暗記などは、はたして、その言語の会話能力があるということを保証するものなのでしょうか。ただ話せばいいというのであれば、訓練を積んだオウムや九官鳥にもできることになります。

会話は話し手と聞き手相互のインタラクションからなり、決して一方通行の言語行為ではありません。また、そのインタラクションは何らかの目的(タスク)を果たすために実行されるのであり、無目的に行われるのではないということも事実です。つまり、私たちの生活は言語を媒介とした様々な言語活動(言語生活)から成り立っていて、それを満たすために言葉を発するのだと考えられます。したがって、日本語ができるということは日本語を媒介とした言語活動が遂行できる能力であり、その口頭面の能力を日本語の会話能力と定義づけることができますでしょう。

コミュニケーション能力(communicative competence)という用語が使われるようになって30年近く経ち、その意味するところもずいぶんはっきりしてきたと思います。Canale & Swain(1980等)のモデルに従うと、それは①文法能力(grammatical competence) ②社会言語学的能力(sociolinguistic competence) ③談話能力(discourse competence)、④方略能力(strategic competence) からなるということですが、上に述べた口頭面における「言語生活遂行能力」という会話能力観はこのモデルを具体化しただけでなく、さらにそれを包括的に捉えたものです。なぜなら、どのような言語もその言語文化に対するしっかりした認識なしには適切な使用は難しいからです。

2. 会話能力の測定：OPIの場合

私が日本語を教え始めた70年代中ごろは、会話テスト

として、まだ、ダイアログの暗誦を課したり学習した語彙や文型が使えるかどうかを調べるのが一般的でした。何かの絵(例、部屋の構造)を記述させるタスク形式のものもありはしましたが、先に述べたような包括的な会話能力観に立ったテストはまだ生まれていませんでした。このような状況は今でも変わらず、日本語能力検定試験においても会話能力の測定はいまだ開発中の段階で実現はされていません。

こういう現状の中、ここで、私が紹介をする会話能力測定は米国外国語教育協会(ACTFL)が開発し、実用化されているOPIという面接による会話能力テストです。OはOral(口頭)、PはProficiency(外国語熟達度)、IはInterview(面接)、つまり、面接方式による外国語の熟達度測定です。このテストには前に述べたような包括的な言語能力観に基づき、また、汎言語的に通用するとされる外国語能力規定(以下「ガイドライン」)があり、それを基に被験者の能力(熟達度)判定を行います。

このガイドラインは初級～超級の4段階の能力尺度からなり(上の能力は下の能力を含むという考えから)超級 初級の順で述べると次のように説明できます。

超級(Superior): 意見の裏付けができ、仮説が立てられる。具体的な話題も抽象的な話題も議論できる。言語的に不慣れな状況にも対応できる。(例; 無実の表明、環境政策批判、幼児の説得、専門的テーマの講義)

上級(Advanced): 主な時制/アスペクトを使って叙述、描写できる。複雑な状況に対応できる。(例; 故郷紹介、交通事故の報告・処理、病状説明、隣人への苦情、値切り)

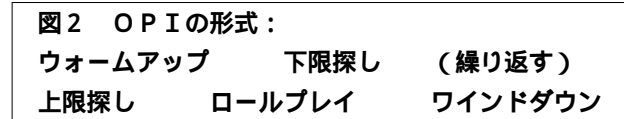
中級(Intermediate): 自分なりに言語が使い、よく知っている話題について簡単な質問や答えができる。単純な状況や、やりとりに対処できる。(例; 買い物、道案内、ホテルの予約、デートの約束、スケジュールを立てる)

初級(Novice): 決まり文句、暗記した語句、単語の羅列、簡単な熟語でのみコミュニケーションができる。(例; 挨拶、名前・時間・値段・年齢などを言う)

ここで注意を要するのは、ここでいう「初級～超級」とは、一般の教育機関、教科書などで使用されているこれらの用語とは全く関係がないことです。ここに見る能

3. 会話能力の判定

OPIは最大30分という限られた時間内に被験者とできるだけ自然な会話を行い、その間に被験者がどのレベルの言語活動をどのレベルの表現で、どれほど遂行できるかを調べます。図1を利用すると、まず、被験者にそもそも対話ができるのかどうか（中級レベルに入れるかどうか）を調べ、その能力があると分かれば、さらにどの辺りまで行けるかという上限探しを行います。その過程において無理が生じ、例えば、人物説明などがうまくできず、言語的挫折を起すと分かれば、もう一度、無理のないレベル（下限探し）に戻します。このような上限探しと下限探しのいろいろなタスクに対して繰り返し、もっとも安定したレベルを探し出します。大抵の場合、仮測定が終わってその段階でロールプレイを行います。その目的は、面接の場に行けるだけ実際の言語活動場面を持ち込み、例えば、デパートなどを想定し本当に買い物ができるのかということを確認めます。そして、締めくくります。この作業は次のように図示できます。



面接はテープレコーダに録音し、テストの後もう一度聞き直し、ガイドラインに照らし合わせて能力レベルの決定を行います。初級、中級レベルの話者には15分位、上級、超級話者には25分から30分かかるのが普通です。水泳力を調べる場合も同じで、上級のスイマーに初級レベルの課題を与えても意味がありません。また、本当のプールで調べるのではなく、畳の上で泳げるかどうか調べるのも無意味です。OPIも、被験者の大体の能力レベルをできるだけ早く見つけ出し、それを絞り込んで最終的な判定を出す必要があります。詳しくは私の行ったインタビュービデオ（『日本語教授法ワークショップビデオ』）を見て下さい。OPIは日本語教育に大いに応用できる面を持っていますが、それについてここで述べることはできませんので、それも参考文献をご覧ください。

基本的な参考文献

鎌田修・川口義一・鈴木睦（2000）『日本語教授法ワークショップ増補版』凡人社（1996にビデオあり）

牧野成一、鎌田修他（2001）『ACTFL - OPI入門』アルク

Canale, M. and Swain, M. (1980) "Theoretical Bases of Communicative Approaches to Second Language Teaching and Testing," Applied Linguistics 1 : 1 - 47 .

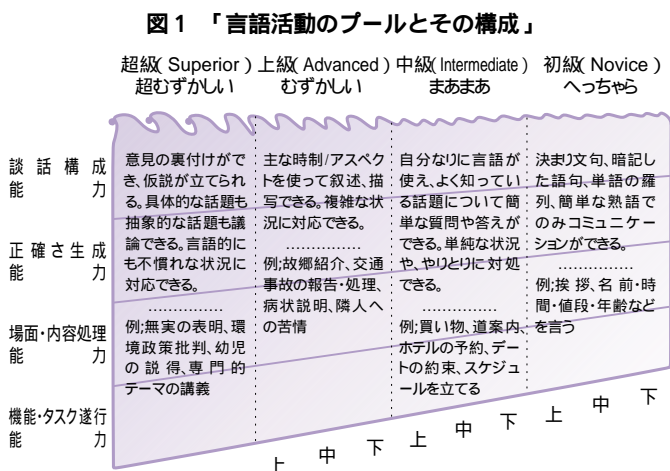
Omaggio - Hadley, A 2001 .Teaching Language in Context .(3rd ed .) Boston : Heinle & Heinle.

Swender, E. ed .(1999) ACTFL Oral Proficiency Interview Tester Training Manual, Hastings - on - Hudson, NY : ACTFL.

力判定は「X教科書でY時間学習したから 級だ」というのではなく、どういう言語活動が遂行できるかという、言語の機能面に焦点を当てているのです。もちろん、語彙、文法などを知らずして言語活動の遂行はできませんが、文法能力は外国語能力の一部にすぎないという認識です。というより、このガイドラインではコミュニケーション能力がそうであるように、社会言語学的能力などの運用能力を文法能力と同等に扱います。つまり、①どのような言語活動（機能・タスク）を、②どのような場面（コンテキスト）で、③どのように（正確さ）、そして、④どのような談話の型として遂行できるのかということを問題にしています。これをガイドラインの4大構成要素と言います。それらを簡単に説明すると次のようになります。

- ①機能・タスク遂行能力：機能とは言語活動そのものの目的、例えば、要求、感謝、記述、説得等抽象的な概念で、それを具体化したもの（休暇の請求等）がタスク。固定化、習慣化したストレートな機能・タスクほど遂行しやすく、予期できない出来事等、よじれを伴うものほど難しくなる。
- ②場面・内容処理能力：言語活動の場面と話題そのもの。話者自身を軸とし、見知らぬ人、目上の人に話すなど、心理的、社会的距離が広がれば広がるほど処理が難しくなる。
- ③正確さ生成能力：文法、語彙、発音、社会言語的能力、語用論的能力、流暢さの要素からなる。話者自身にしか通じない正確さから、目標言語を母語とする人に問題なく通じるレベルまでを想定。
- ④談話構成能力：単語から複段落にいたるまでの明確な伝達機能を持った言語の単位。言語活動の表面的な言語形式。

上に述べたことは、次のように図示することができます。



この図は外国語能力と水泳の能力とを比喩的に示したのですが、能力があればあるほど、遠く、広く、また、深く話せる（泳げる）ということを意味します。

国際交流基金開発教材紹介

『続 教科書を作ろう』 - 中等教育向け初級日本語素材集 - 』

『続 教科書を作ろう』は、平成11年3月に刊行した『教科書を作ろう』の続編です。『教科書を作ろう』『続 教科書を作ろう』は、海外の中等教育段階での日本語教育を支援することを目的として企画・制作されました。日本語教育の目的、学習時間、学習環境などが異なる国や地域で、それぞれの事情に合った教材を作成するときに参考にしたり利用したりできる素材集です。この素材集を使って、学習者が無理なく、楽しく日本語を学べるような教材が開発されることを期待しています。



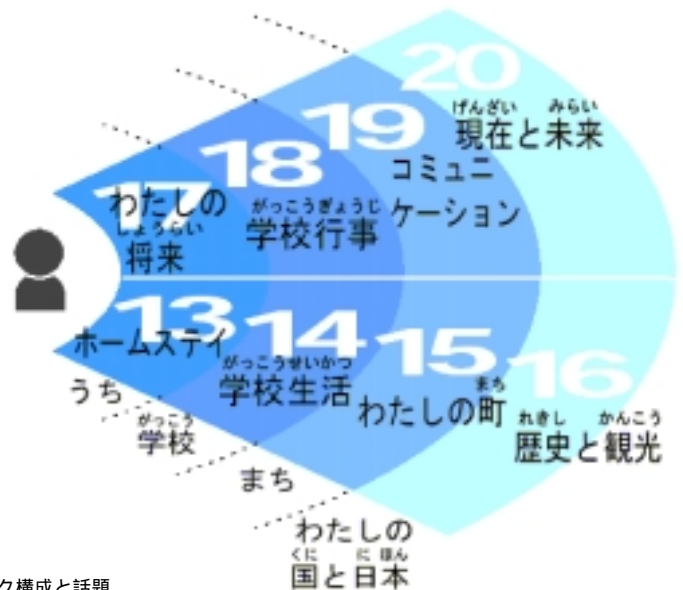
1. 『続 教科書を作ろう』とは

『続 教科書を作ろう』は、『教科書を作ろう』と同じように教材を作るとき、必要な部分を取り出して使ったり、ことはや例文を入れ替えたり、翻訳したりして、自由に使うことができる素材集です。

<概要>

対象とした使用者 たいしょうたいしやうしや	海外の日本語教材作成者、中等教育段階の日本語教師 かいがい にほんごきょうざいさくせいしや ちゅうとうきょうだんたいにかい にほんごきょうし
対象とした学習者 たいしやうがくしゅうしや	海外の中等教育段階の学習者 かいがい ちゅうとうきょうだんたいがくしゅうしや
学習段階 がくしゅうだんたい	初級後半（日本語能力試験3級相当） しよきゅうこうはん にほんごのうりょくしけん きゅうそうとう
内訳 うちわけ	「せつめい編」A4版118ページ 「れんしゅう編」A4版268ページ 音声テープ80分1本 おんせい ふん ほん

『続 教科書を作ろう』は、素材集であると同時に学習者の身近な話題にそった教材構成、学習段階のモデルを示しています。『教科書を作ろう』に続く学習段階として8つのブロックに分けられています。



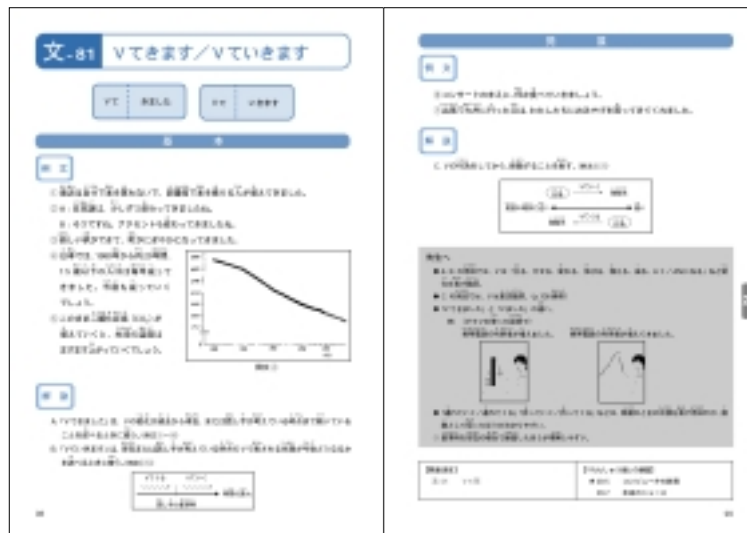
『続 教科書を作ろう』のブロック構成と話題

『続 教科書を作ろう』は、「せつめい編」と「れんしゅう編」の2編からできています。

「せつめい編」には、初級後半（日本語能力試験3級相当）の文法・文型48項目の構造と使い方についての説明及び理解を助けるための例文を載せました。ある学習項目の理解に最小限必要な内容からより詳しい内容まで3段階に分けて記述されていて、学習者に応じて学習内容を選択する際の参考になるように配慮されています。

< 取り上げた文型・文法項目 >

<p>13 ホームステイ んです Vたほうがいいです Vてはいけません Vてみます Vかた あげます もらいます</p>	<p>14 学校生活 V(られ)ます(可能) Vなければなりません Vなくてもいいです Vてしまいます A / AN / Vすぎます 可能形 までに</p>	<p>15 わたしの町 たら ても Aく / ANに / Nにします Vようにします より...ほう NとNとどちら</p>	<p>16 歴史と観光 NはNより かどうか / 疑問詞...か NというN 疑問詞 + でも...肯定 ので と(引用) こそあど</p>
<p>17 わたしの将来 V(よ)うとおもいます かもしれません の(名詞化) ために 意向形</p>	<p>18 学校行事 そうです(状態) Vておきます Vこと / Nになります Vこと / Nにします と(条件)</p>	<p>19 コミュニケーション V(ら)れます(受身) Vてもらいます Vてくれます そうです(伝聞) 受身形 のに</p>	<p>20 現在と未来 Vようになります みたいです / ようです Vてきます / Vていきます Vやすいです Vにくいです</p>



「せつめい編」
p. 98 - 99

「れんしゅう編」では、ことばの定着と使用のための61の練習を紹介しています。いっしょに日本語を勉強している学習者同士が日本語でもコミュニケーションができるようになることを目標としています。練習は4技能のバランスに配慮されているだけでなく、様々な練習のアイデアも提供しています。また、海外の教授環境で、特別な準備や教具がなくてもできる練習を紹介しています。

「れんしゅう編」
p. 30 - 31





「れんしゅう編」p.94 - 97

2. 『続 教科書を作ろう』の利用

そく きょう かしよ つく りよう

『続 教科書を作ろう』からは、次のような教材や参考書を作ることができます。

「せつめい編」 + 「れんしゅう編」 学習者用の教科書、日本語教師研修用教材

「せつめい編」 学習者用の簡単な文法書、教師用の例文集

「れんしゅう編」 会話集、聴解教材、読解教材、作文教材、教室活動集

また、毎日の授業用のプリント教材、宿題の作成にも利用できます。

なお、この素材集の著作権は、国際交流基金にあります。利用にあたって許諾を得る必要はありません。

3. 入手方法

にゅうしゅほうほう

『続 教科書を作ろう』は、非売品ですので、書店などで購入することはできません。希望する学校、機関に無料で配布します。入手を希望する方は、国際交流基金日本語国際センターのホームページで直接申し込みいただくか、下記までご連絡ください。

ただし、本教材は、原則として海外の日本語教育支援を目的として制作されたものですので、発行部数の事情で国内の機関からの希望には応じられない場合がございます。ご了承ください。

国際交流基金日本語国際センター 制作事業課
 せいさくじぎょうか
 〒336 0002 埼玉県さいたま市北浦和5 6 36
 さいたまけん しきたうらわ
 TEL .048 834 1183 FAX .048-831 7846
<http://www.jpfi.go.jp/j/urawa/index.html>

『教科書を作ろう』をまだ入手していない方も上記にお申し込みください。なお、ホームページには『教科書を作ろう』『続 教科書を作ろう』を完全掲載していますので、ダウンロードしてご利用いただくこともできます。

制作事業課では、ご利用後のご意見、ご提案もお待ちしております。来年には、ホームページの『教科書を作ろう』『続 教科書を作ろう』の内容を更に使いやすい形で提供し、皆様のご意見等を書き込んでいただける掲示板を用意する予定です。

このコーナーでは、海外で日本語を教えるときに、教師が直面すると思われる問題をとりあげ、質問に答える形で、読者のみなさんの参考になる情報を提供していきます。

Q

日本語の教え方についての研修を受ける機会がありません。どんな点に注意すれば、上手に教えられるようになるのでしょうか。

A

毎日の授業の中には、授業の改善につながるヒントがたくさんあります。まず、自分の授業をよく観察することを出発点にしてください。自分で問題点を見つけ、その解決策をたて、次にその解決策を授業で試してみること、この繰り返し教え方の改善につながります。

自己研修のすすめ

じ こ けんしゅう

1. 教案を書く

「教案」を書くことは、学習項目を整理し、授業の目的を明確にし、授業の流れを考えることにつながります。簡単なメモでかまいませんから、必ず教案を書きましょう。

2. 学習者の反応に敏感になる

「教案」で計画したことがその通りできるのがよい授業とは限りません。生身の教師が教室にいる意味は、学習者の反応をとらえ、授業計画を調整していくことにあります。学習者の反応はどうだったか、どんな質問ができたか、教案を変えたのはどんな点でその理由は何かについて、授業のあとで考える時間をとってください。そして、それを教案にメモしてください。この中から、自分の授業の改善点が見つかるはずですよ。

3. 教師のネットワークを利用する

「3人寄れば文殊の知恵」ということわざがありますが、よい授業のイメージや授業を見る観点は教師によって異なります。教師同士で、授業や教案を見せ合う、授業のアイデアを交換する、また、授業のあとで感想を述べ合うだけでも、思わぬ発見があるはずですよ。それが、学校や地域の日本語教師との勉強会に発展していけばこんなに心強いことはありません。

コース全体を見る目を養う

ぜんたい み め やしな

「コース・デザイン」という言葉があります。これは学習者をとりまく諸条件に考慮して学習者にとって最適な学習課程を計画するという意味で使われます。教科書を最初から順番にできるところまですすめるのはコース・デザインにはなりません。コースの終わりに学習者が身につける日本語はどんなものか（到達目標）、そのために何を学習しなければならないか（学習内容）、そしてどんな練習をすればよいか（学習方法）という長期的な計画を教師はもっていなければならないのです。日々の

一コマの授業をコース全体の地図の中で確認していく作業を忘れないでください。

教えているクラスの特徴を知る

おし とくせい し

教授法のクラスで教え方のアイデアを紹介すると、「私のクラスには合いません」と言われることがあります。それは、クラスによって次のような点がちがっているからなのです。

- ① 学習者のニーズ、レベル、学習スタイルや好み
- ② 教材、教室や施設などの条件
- ③ コースの目標、カリキュラムやシラバス、試験など
- ④ 教室の外にある日本語の環境

これらのちがいはあって当然で、教師にとって大切なのは、紹介された活動や教材などをクラスに合わせていく工夫です。そのためには、教師が自分のクラスの特徴をよく理解していることが大切です。みなさんのクラスの場合はどうか、①～④について常に考えるようにしてください。

練習の質を考える

れんしゅう しつ かんが

授業で学習者にさせたことをメモしてみましょう。

例：①教科書のモデル会話を声を出して読み覚える。

- ②教科書の会話テープをきく。
- ③勉強した文型を使って3つ文を作る。
- ④日本語をつかったゲームをする
- ⑤グループになって、週末したことを自由に話す

みなさんが書いたメモの中には、学習者自身が自分の経験や考え、気持ちを日本語で表現する活動がありました。①～③のような練習だけをいくらしても日本語が使えるようにはなりません。クラスの中で「日本語で自分の言いたいことを表現し、友人の発言が理解できたという経験」が必要です。「教えることが多すぎて時間が足りない」という声をよくききますが、時間がながいからこそ練習の質を考えると大切ですよ。

第13号の「Q&Aネットワーク」から長く続いた「海外日本語教育Q&A」はこれで最終回となります。次の42号からは、教授法については「授業のヒント」文法については「初中級の文法指導（新連載）」インターネット関係の情報については「日本語教育ホームページ紹介（新連載）」でとりあげます。これからも海外でがんばっているみなさんの琴線に触れるような誌面をつくっていきたいと思います。

このコーナーの担当者：藤長かおる（Kaoru-Fujinaga@jpf.go.jp 日本語国際センター専任講師）

写真で見る 日本人の生活

「ふる」

このコーナーでは、国際交流基金日本語国際センターが発行している、日本語教育用「写真パネルバンク」を使って、初中等教育機関で日本語を教える先生方が、どのように日本人の生活を紹介できるかを提案していきます。また、文型、単語、漢字は、初級の学習者でも読めるようにやさしいものを使っています。今回は「ふる」に関する写真パネルを集めてみました。



湯ぶね

洗い場

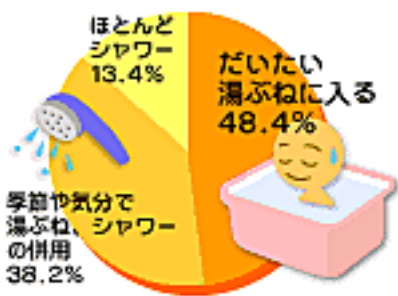
家のふる

洗い場で髪やからだを洗います。湯ぶねでは体を温めます。

ふるの中では、体を洗うほかに、考えごとをしたり、足のマッサージをしたり、はみがきをする人もいます。

入浴（ふるに入る）時間の平均は、夏21分、冬26分です。（東京ガス調査 <http://www.tokyo-gas.co.jp/Press/20001110-2.html> 2001年6月26日参照）

●あなたの入浴はどのタイプ？



資料：鐘紡株式会社カネボウ化粧品本部
編『OLに聞く入浴の意識と実態調査』

<http://www.snowbrand.co.jp/kenko/genki/5th/genki.htm> 2001年6月26日参照

下の写真のようにトイレとふると洗面所がいっしょにコンパクトにまとまっているものもあります。

若い人や人数の少ない家族では、シャワーだけあびる人も多いです。





ふろや (銭湯)

せん どう



ふろやは以前はたくさんありましたが、今は多くの家にふろがあるので、だんだんへってきました。

地方によってちがいますが、だいたい200円から400円ぐらいで入れます。



ふろやの中です。

洗い場も広く、湯ぶねも大きいです。

脱衣場 (ふくをぬぐ所) でふくをぬいでから入ります。



温泉

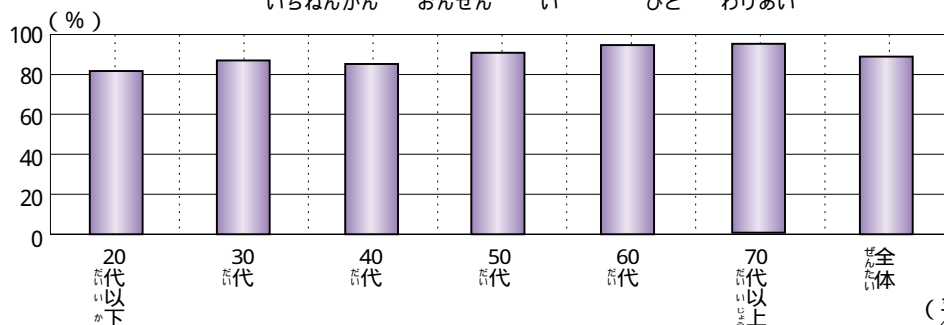
おん せん

日本は火山が多いので、全国に温泉があります。

外で景色を楽しめる露天風呂は人気があります。

この一年間に温泉に行った人の割合

いちねんかん おんせん い ひと わりあい



(平成10年)

平成10年 (社)日本温泉協会による「第41回 旅と温泉展」アンケート調査結果
http://inpaku.pref.oita.jp/research/culture/graph.html (2001年6月26日参照)

授業のヒント

前回に引き続き会話の授業の教え方を取り上げます。今回は特に会話のストラテジーをどう教えるか考えてみましょう。

テーマ 会話のストラテジーを教えよう

目的・教えること
・会話のストラテジーを使って会話力を高める
学習者のタイプ
・初級・中級
クラスの人数
・何人でも
準備するもの
・特になし

前号では、対話形式で言葉のやりとりをして、一つの会話を進めていく力を伸ばすための指導方法を紹介しましたが、今回は、会話のストラテジーを使いながらさらに会話が上達するための指導方法を取り上げることになります。

会話のストラテジーを考える

会話が上手になるためには、日本語を使ってうまくコミュニケーションを行う力を高めることが欠かせないでしょう。うまくコミュニケーションを行う力とは、相手の言ったことがわからなくても、確認したりして会話を続けていくことができる力のことです。

まず、下の会話文を見てください。

会話例 1

A：はじめまして。わたしはマリオです。どうぞよろしく。

B：わたしは高橋です。こちらこそよろしく。

AとBは初対面で、お互いに自己紹介をしている場面の会話です。ここでは、AもBもともに自分の言いたいこと - 初対面の挨拶、名前 - を伝え合っていて、AもBもそれを正しく受け取っているようです。

しかし、実際の日本語学習者の会話では、たとえ日本語の音声、文法、語彙、表現を十分に勉強していても、初めて会った人の名前を聞いてすぐ理解することは決してやさしいことではないはずです。

次の会話は教科書の会話文です。

会話例 2 パーティーで / 名前を聞く

マリオ：こんにちは。はじめまして。

高橋：あ、こんにちは。
マリオ：わたしはマリオです。どうぞよろしく。

高橋：は？
マリオ：マ・リ・オです。

高橋：マリオさん。
マリオ：そうです。あのう、お名前は？

高橋：わたしは高橋です。

マリオ：た・か？

高橋：た・か・は・し。

〔名刺を渡しながら〕どうぞ。

マリオ：どうも。高橋さんですね。

高橋：ええ、よろしく

『日本語入門 はじめのいっぽう』(p. 32)

上の会話では、高橋さんは名前が聞き取れずに「は？」と聞き返しています。一方のマリオさんは名前が聞き取れた部分だけ「た・か？」と繰り返しています。

また、高橋さんもマリオさんも、もう一度名前を聞いた後で、それぞれ「マリオさん」「高橋さんですね」と言って、自分の受け取り方が正しかったかどうか確認しています。

その結果、高橋さんもマリオさんももうまく相手の名前を知ることができました。

私たちが母語で会話をするときには、なんとかコミュニケーションが成り立つようにやりとりし、自分の言いたいことが伝わっているかどうか、また、相手が言いたいことを正しく受け取っているかどうか確かめながら会話を進めていきます。

このように、相手の言ったことを聞き返したり、確認したりするなど、会話がうまく運ぶように助ける手段のことを「会話のストラテジー」と呼びます。

会話のストラテジーは、機能の面から大きく次の2つに分けることができます。

会話のストラテジー

コミュニケーション上の障害が起こるのを避ける

例) わからない単語や文法を使わない

特定の話題や表現を避けて話す
わからなくても聞き流す

コミュニケーション上の障害を乗り越える

例) 知っていることばに置き換える

聞き流す
聞き取れた部分だけを繰り返す
もう一度 / もっとゆっくり言うように頼む



日本語の語彙や文法の知識が十分でない学習者は、このような会話のストラテジーを使ってコミュニケーションに問題が生じるのを避けたり乗り越えたりする必要性が高いと言えるでしょう。

では、授業の中で具体的にどう教えたらいいか考えることにしましょう。

授業での応用

最近の研究では、よくできる学習者が使っているストラテジーは、他の人でも学ぶことができると考えられています。ここでは、授業に応用できる、いくつかの方法を紹介しましょう。

① 学習者同士で話し合う

私たちが母語でコミュニケーションを行うときには無意識に使っている会話のストラテジーがいくつもありません。それらの中には日本語で会話をするときにも役立つものがあります。

たとえば、会話の途中で意味がわからないことばがあったときにはどうしたらいいかなどについて話し合うと、学習者に会話のストラテジーを意識化させることができます。

初級レベルのクラスでは、学習者の母語で話し合ってもかまいません。

② ビデオやテープを利用する

会話例2のように会話のストラテジーを取り入れている教科書のテープ教材や市販のビデオ教材の会話を使う場合、視聴する前に、たとえば学習者に次のような質問を与えるといいでしょう。

- 相手の名前を聞いた後、高橋さんとマリオさんは何と言ったか
- 始めの部分しか聞こえなかったときどうしたか
- 自分の理解したことが正しいかどうか相手にどうやって確かめたか

ビデオやテープを使いながら、学習者の注意を会話のストラテジーに向けさせるようにすると効果的でしょう。

③ インフォメーションギャップを作る

お互いの言いたいことがわからない状況があって初めて、会話のストラテジーを使う必要性が生まれます。ペアで、あるいはグループで練習する場合にも、お互いの持っている情報がまったく同じではない状態、つまりインフォメーションギャップがある状況を作って練習させ

なければなりません。

たとえばペアで、それぞれ少し内容の違う地図を見ながら「__は__にあります」の文型を使って、道を聞く練習をする場合、次の例のように、同時に会話のストラテジーの練習ができるでしょう。

会話例3

A: あのお、すみません。郵便局はどこですか。
B: 郵便局...ええと、郵便局は、ブックス北浦和のとなりにありますよ。

A: ブック...

B: ブックス北浦和。

本屋ですよ。

A: ああ、ブックス北浦和のとなりですね。わかりました。どうも。

B: いいえ、どういたしまして。



④ ロールプレイをする

次のような、会話のストラテジーを積極的に使うような種類のロールプレイをしてみるといいでしょう。

ロールカード例1

A. あなたは新幹線の中にいます。荷物が多いので、友だちのBさんに電話をして、迎えに来て欲しいと頼みます。待ち合わせに必要なことを話してください。

B. あなたはAさんから電話を受けましたが、いつ、どこで待ち合わせると言ったのか、よく聞き取れませんでした。どうしますか。

『コミュニケーションに強くなる日本語会話』(p.74)

練習後の発表で、特にうまく会話のストラテジーを利用していたペアをほめるようにすると、クラス全体の意欲もより一層高まることでしょう。

これで、会話の途中でつまずいたり、わからないことが起きたりしても、なんとか解決する準備は整いました。あとは、間違いを恐れずに、教室の内外でさまざまな人と日本語で会話をする機会を作ってみてください。

参考文献

- Ellis, R (1986) Understanding Second Language Acquisition. Oxford University Press.
- 目黒真実、勝間祐美子、濱川祐紀代、栗原毅(2001)『コミュニケーションに強くなる日本語会話』アルク
- ルービン、J. & トンプソン、J (1998) 『外国語の効果的な学び方』(西嶋久雄訳)大修館書店
- 谷口すみ子、萬浪絵理、稲子あゆみ、萩原弘毅(1995)『日本語入門はじめのいっぽ』スリーエーネットワーク

先日、インド・カルカッタのニガム和子さんからお手紙をいただきました。「俳句を作りましょう」(第39号)を参考に授業をしたとのこと。学生の作品を2つ紹介しましょう。

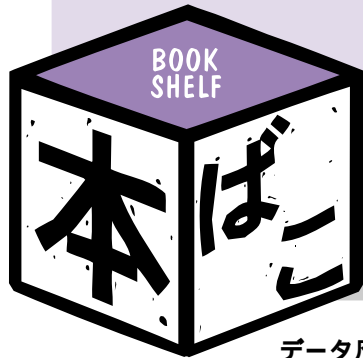
とりがなき きにはながさき ときははる
よがあけて にっこうけて きんのそら

お便りありがとうございます。他の皆さんからのアイデア、成功例、失敗談などもお待ちしております。

*このコーナーの担当者:有馬淳一、古川嘉子(日本語国際センター専任講師)

新刊教材・図書紹介

しん かんきょうざい と しょうしょうがい



「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。紙面の制約上、一回に多くの本を紹介できませんが、「海外の先生にとって使いやすい教材」「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っているると便利な図書・資料」などを取り上げます。

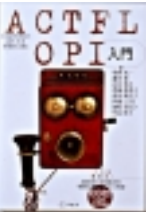
- データ凡例 1 著者 2 出版社 3 刊行年月 4 ISBN 5 判型・ページ数 6 定価 7 その他

学習者の会話能力を客観的に測る

がくしゅうしゃ かいわ のうりよく きやうかん てき ほか

『ACTFL OPI入門』

にゅうもん



データ

1 牧野成一、鎌田修、山内博之、齋藤眞理子、萩原雅佳子、伊藤とく美、池崎美代子、中島和子 2 発行:アルク 〒168 8611 東京都杉並区永福2-3323 2021) 3 2001年 2月26日 4 4 7574 0274 0 5 A 5 判 232ページ CD 付 6 2,940円

ACTFL OPI*とは何か

ACTFL OPIとは、アメリカで作られた会話能力を測るインタビューテストです。どこで何時間勉強したかに関係なく、日本語で何ができるかという点からレベルを判定します。例えば、最近読んだ物語のストーリーを話せるか、社会問題について意見を言えるかなどをテストされます。



レベル 図1 P.16

レベル(図1)は、超級/上級/中級/初級の4つに大きく分かれ、超級以外はさらにそれぞれの級の中で上/中/下に分かれます。評価のポイントは①機能・タスクを中心に、②場面/話題、③正確さ、④テキストの型の、4つです。

本書は、1章【理論編】OPIの理論と日本語教育、2章【基礎編】OPIの実例と口頭能力のレベル判定、3章【活用編】OPIを授業に生かす、【付録】インタビューを収録したCDとそのスクリプト及びACTFL Guideline (基準)からなっています。【基礎編】では、実際のインタビューの文字化資料(図2)を使って、各レベルを具体的に説明しています。

海外での利用法

ACTFL OPIテストをするには資格が必要です。しかし、資格をとらなくても、会話テストの作成、シラバス/到達目標の設定、毎日の授業などに考え方を利用することはできます。それぞれ例を挙げ

図2 P.94-95

みましょう。図3は自分の学校用に作成した会話テストの質問紙です。みなさんもこれを参考に自分で会話テストを作ってみることもできるでしょう。到達目標設定の例としては、米国のある大学の例が本書46ページにあります。この大学では、到達目標を1年生(120時間)初級の上、2年生(120時間)中級の下、3年生(120時間)中級の中、4年生(96時間)中級の上と設定しています。最後は毎日の授業の中で活用する例です。本書にはすべてのレベルに関して、レベルアップ(例えば初級の上から中級の下へ)するための指導例が書かれています。学習者に対して「あなたたちの会話能力はレベルですから、上のレベルになるためにこういう授業をします」と言うことができれば、学習者もやる気が出るでしょう。

* ACTFL (米国外国語教育協会) OPI (Oral Proficiency Interview)

図3 P.103

知的好奇心を満たしながら上級への地固めをするために

『中・上級日本語教科書 日本への招待』



データ

■東京大学AIKOM日本語プログラム、近藤安月子、丸山千歌編東京大学出版会... 郷7 3 1 東京大学構内 / TEL .03 3811 8814 FAX .03 3812 6958... 2001年1月31日 4/4 13 082113 X 5... テキストB 5判・208ページ、予習シート・語彙・文型・192ページ、CD3枚組(合計180分) 9,975円 CDのみの購入は不可。テキスト、予習シート・語彙・文型は個別に購入可。テキスト 2,520円 予習シート・語彙・文型 2,730円

“今”の日本を知る

これは中級終了後、上級へ進もうとしている学習者を対象とした教科書です。大きな変化をみせている現代日本社会の重要な問題をテーマにとりあげながら、さまざまな言語活動を通じて、学習者が上級の学習にスムーズに入っていくための橋渡しを目指したものです。

この教材は『テキスト』(以下「本冊」)『予習シート・語彙・文型』(以下「ワークブック」)の2冊の本と、3枚のCDからなっています。本冊は、現代日本が抱える社会問題から6つのテーマを選んでいます(女性の生き方/変わる教育/若者の感性/仕事への意識/日本の外国人/豊さの意味)。ワークブックは本冊内容の理解のための材料(予習シート 語彙 文型)です。また、このワークブックには、全般にわたって英語による説明があります。CDはテキストにある読解文を録音したものです。

ワークブックの使い方ポイント

本冊の各テーマは①知っていることを話そう、②ここから考えよう、③話そう・書こう、の三つの部分に分かれています。

①はQ&Aです。用意されたキーワード

ドを上手に使ったりして、テーマについて知っていることを口頭で表現します。

②ではテーマについての情報や新しい視点を得るために、多様な形式の資料(絵、文、グラフなど)を読みます。この資料は、ふりがななしのものと、ふりがなつきのものの2種類が用意されているので学習者のレベルやニーズに合わせた使い分けができます。この②の作業をするときに使うのがワークブックです。

予習シートは、資料を読む前のタスクと、実際に見たり読んだりしながらするタスクからなっていて、これにより資料のたいたいの内容をつかみます。語彙は、本冊資料の語彙リストで、いわゆる「使用語彙」と「理解語彙」の区別が目で見分けるようにしてあります。

③では①と②の作業から得たものをまとめたり整理したりしたあと、自分の意見を日本語で表現する練習をします。②の

作業がいわば確認と定着の作業であるとなれば、この③の作業は発信のための作業です。さらに、

ワークブックの文型では、資料の中の中・上級文型のうちのいくつかをとりあげ、その意味・用法をふまえた練習ができます。また、本冊の巻末には語彙と文型の索引があります。

機関に合わせた使い方ができる

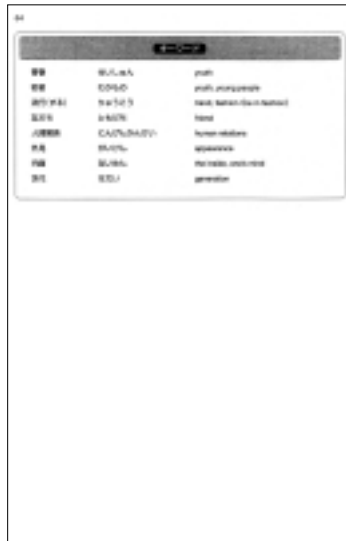
この本は、大学の短期留学コース(10か月)において、日本語教育の内容をその後の専門教育に

う意図のもとに作成されたものを元にしています。本冊にある6つのテーマはこの視点から選ばれています。したがってこの教科書は、現代日本事情についてできるだけ新しい情報を身につけたいという学習者のニーズがある機関で使われるのがふさわしいでしょう。

この本を使う場合、授業内容の中心となるのは、本冊とワークブックを使って行う種々のタスクということになります。この部分をふくらませたり縮めたりすることで、ある程度は内容と時間の調節をすることができるでしょう。そうすることで機関に合わせた使い方ができるのもこの本の大きな特徴です。



P.92-93 テキスト



P.64-65 予習シート・語彙・文型

p.20~23は、以下の日本語国際センター専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。

柴原智代、内藤満、藤長かおる、雄谷進、磯村一弘、島田徳子(執筆順)

段階をおって新聞が読めるようになる

『外国人のための新聞の見方・読み方 2001』

データ

■河野喜美子編 編集発行：KIT教材開発グループ 発売 凡人社 〒102-0093 東京都千代田区平河町1 3 13 菱進平河町ビル1階 / TEL .03 3263-3959 FAX .03 3470 2129) 2001年1月6日(改訂第4版) 4 906336 04 3 B 5 判・200ページ 625円

新聞を読んでみたいというのは、ある程度日本語ができるようになった学習者なら、一度は考えることではないでしょうか。とはいっても、海外にいと新聞が手に入りやすかったり、また、語彙や表現がむずかしく、なかなか理解できなかったりします。

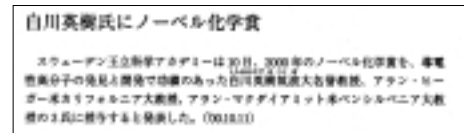
この本は、中級レベル(学習時間400時間、漢字500字～800字、語彙1,500～3,000語)の学習者を対象に、過去2、3年の新聞記事を教材化したものです。

全体は3部に分かれています。「I.

分野別日本事情」は、新聞を読むのに必要な背景知識と語彙力を身につけるための練習です。「政治・国際」「経済・産業」「環境・科学・技術」「社会」「文化」の分野別に、84のトピックについて10行程度の文章があり、トピックごとに語彙(英訳付き)と言い回しが確認できます。次の「II 見出しとリードでつかむニュースの側面」は、新聞の見出しとリード文(見出しのあとにくる内容の要約)から内容をつかむ練習です。1998年から2000年の主要なできごとの79の見出しとリード文(各4～5行)が集められていて、Iで身につけた力を試すことができます。最後の「III 新聞各紙の情報を読む/理解確認練習」は、記事全体を読む練習です。1999年と2000年の37の新聞記事と、それについての問題があり、実践力をつけることができます。

このようにI、II、IIIは段階をおっていますが、興味のあるところだけを選んで

もよいです。また、巻末には、1945年から2000年までの「戦後の主な出来事」日本を中心とした「年表」があり、日本事情を理解する助けになります。自分の学習用にも、授業の教材用にも使える1冊です。



P.120 第2部より

和名		英名
和名	トウモロコシ	corn/cornmeal
漢字	とうもろこし	corn/cornmeal
ローマ字	Toumorokoshi	corn/cornmeal
品名	とうもろこし	corn/cornmeal
単位	本	unit
備考		
和名	とうもろこし	corn/cornmeal
漢字	とうもろこし	corn/cornmeal
ローマ字	Toumorokoshi	corn/cornmeal
品名	とうもろこし	corn/cornmeal
単位	本	unit
備考		

P.78 第1部より



1日1課で使いやすく、分かりやすい初級教材 『にほんご90日』

データ

■ヒューマン・アカデミー教材開発室 / 星野恵子、辻和子、村澤慶昭 編集発行 ユニコム(〒153 0064 東京都目黒区下目黒1 2 22 1004/TEL .03 5496 7650 FAX .03 5496 9680) www.unicomira.co.jp 4 4 89689 以下第1巻 342 5、第2巻 359 X 第3巻 363 8 漢字ノート 378 6 教師用Navi 399 9 B 5 判・206～272ページ 教師用Navi以外別冊解答付 各2 625円 漢字ノートのみ2 940円

初級を教えている教師の中には“1日1課で授業を進められ、そのパターンが決まっていれば、教えるのに”と思っている人が多いと思います。

今回紹介する『にほんご90日』はこの

ようなニーズのある教育現場で使える一般成人向けの初級教科書です。週1コマ2～3時間の授業で教える人、学ばる人にとって便利なものでしょう。3巻のテキストのほか、教師用Navi、漢字ノートもついています。

各課の構成は「ことば」「文の形」「形の練習」「文の練習」「会話」の5部からなっています。「ことば」では多くの新しい言葉を絵で示してあり、導入がやりやすくなっています。「文の形」も導入する文法項目については目で見て分かるようにチャート(図式)です。また用例もよく使うものを示してあり、分かりやすいでしょう。次に「形の練習」「文の練習」です。例えばテキストにある絵を大きくすることで、話すこと、聞くことに集中できると思います。最後に「会話」では会話文の絵を大きくし、本文の助け

にできます。「教師用Navi」は新しい学習項目をどのように導入するか、さらには学習者の疑問などについても解説があって教師の役に立つと思います。



P.162～163



「教師用Navi」 P.34

NEWS ニュース

日本語教育指導者養成プログラム (修士コース) 開講

本年10月より新規プログラムとして、日本語教育の修士コースが始まります。

このプログラムは、ODA対象国の日本語教育機関等の現職日本語教師もしくは日本語教授経験者を対象として、1年間で日本語教育の修士コースを修了するものであり、各国における日本語教育指導者の養成を目的にしています。

実施にあたっては、外国人日本語教師に対する日本語教育の実績を有する「国際交流基金日本語国際センター」、言語学・国語学等の学問的研究機能を有する「国立国語研究所」、政策研究においての文化に関する教育研究機能を有する「政策研究大学院大学」の3機関が連携し、3機関の指導講師による、高度で実践的な学位プログラムになります。

本年度は9名(インドネシア、タイ、フィリピン、インド、メキシコ、ブラジルより各1名、マレーシア3名)の合格者が決定しており、平成14年度(2002年10月開始)については、15名程度の入学者を予定しております。

1. コース期間：1年(4学期制)
2. 取得学位：修士(日本語教育)

学位の認定は、上記の3機関で構成される委員会が行い、政策研究大学院大学より学位が授与されます。

3. カリキュラム概要：(1)コミュニケー

ション能力⁽²⁾日本語の構造と言語研究
(3)言語教育(4)社会・文化・地域

修了要件単位数=36単位以上

4. 申請手続：最寄の当基金事務所または在外日本公館より申請書入手し、所定の申請書および必要書類を2001年12月3日までに当該機関に提出して下さい。個人での申請になりますが、所属機関長の推薦状が必要です。
5. 選考試験・結果発表：書類審査の後、2002年2月に第二次審査(筆記試験・口述試験)を実施する予定です。合格判定は上記3機関で構成される委員会が行い、2002年4月に合格者を発表します。申請要領は、最寄の当基金事務所もしくは在外日本公館にお問い合わせ下さい。

日本語教育論集「世界の日本語教育」 第11号発刊

日本語国際センターが編集・発行している日本語教育論集「世界の日本語教育」の第11号が発刊されました。この論集は、世界各国で行われている日本語教育や日本語研究分野の研究成果を紹介するために毎年発行しているものです。第11号には世界16カ国・地域から58編の投稿があり、その中から選ばれた15編の論文が掲載されています。

本論集は国内外の主要な日本語教育機関に寄贈されるほか、市販もされておりますのでどうぞ御利用ください。(定価2,200円)

市販についてのお問い合わせ先：

(株)凡人社

〒102 0093 東京都千代田区平河町

1 3 13 菱進平河町ビル8階



Tel: +81 3 3263 3959

Fax: +81 3 3263 3116

国際交流基金主催 日本語教師会・学会国際シンポジウム

当センターは今年10月27日に、日本語教師会・学会国際シンポジウム「国境を越える日本語教育 - 地球規模でのネットワーク作りを目指して -」を開催します。

現在、海外には120以上もの日本語教師会や学会がありますが、これらのネットワークは、これからの日本語教育の活性化にはなくてはならないものです。シンポジウムでは、海外の11の日本語教師会・学会の代表者が一堂に会して情報交換し、今後の教師会の役割について議論します。また、国内の日本語教育支援団体との連携や国を越えたネットワークの可能性についても討議します。海外の日本語教師会・学会が横断的に集まり討議を行う初の試みです。詳細はホームページで。

<http://www.jpff.go.jp/j/urawa>
シンポジウムの様子は次号で報告します。

日本語学習者及び教師向けの日本語・ハンガリー語バイリンガル専門情報誌誕生

ハンガリーでも日本語学習者数が年々増えてきていますが、ブダペスト以外の地域では、日本語や日本に関する情報を入手しにくいのが現状です。

そこで有志の日本人及びハンガリー人日本語教師が手を組んで、特に地方の学習者・教師向けに日本語・ハンガリー語バイリンガル専門情報誌「かりん」を発行することにしました。主な内容は「日本の時事問題」「文法説明や練習」「教え方のヒント」などですが、更なる充実を目指していきたいと考えております。

(かりん編集局 住所：

Bocsikai u.5, Solymar, 2083 Hungary)

編集部から

今回の特集では「続 教科書を作ろう」を紹介しました。当センターが1998年に実施した海外日本語教育機関調査によると、海外の中等教育段階で日本語教育を実施している国は58カ国にのぼり、学習者は約110万人になります。また、日本語教育を実施する上で、教材不足が問題だと考えている機関が一番多くなりました。これだけ多くの国で日本語教育が実施されていると、学習環境や目的は多岐にわたっており、たくさんの教材が市販されているとはいえ、それぞれの事情にあったものを探すのは難しいと思われます。「教科書を作ろう」は、よい教

材を求めている先生方が自由に使える素材集として制作されました。どうぞご利用ください。

次号から新しい連載企画が始まります。「日本語教育ホームページ紹介」(仮称)では、インターネット上で利用できる日本語、日本事情のリソース、日本語学習ツール等から、海外の日本語教師に役に立ちそうなホームページを紹介いたします。内容と共に、利用法についても提案していく予定です。「初中級の文法指導(仮称)では、初級後半から中級の文法指導上の疑問や問題点をとりあげます。どうぞお楽しみに。(K)

*編集部では、『日本語教育通信』に対するご意見や皆さんの学校の状況などを書いたお手紙をお待ちしています。

『日本語教育通信』 第41号

2001年9月発行

発行・編集 国際交流基金
日本語国際センター 情報交流課
〒336 0002 埼玉県さいたま市北浦和5 6 36
The Japan Foundation
Japanese-Language Institute, Urawa
(6-36 Kita-Urawa 5 chome, Saitama-shi,
Saitama 336-0002, Japan)
TEL 048 834 1184 FAX 048 830 1588
E-Mail jfnckt@jpf.go.jp
編集協力
財団法人 国際文化交流推進協会
Assoc. ACE Japan (Japan Association for
Cultural Exchange)
© 2001 by The Japan Foundation

(表紙イラスト：村井宗二) 古紙100%再生紙使用